

(停滞からの脱却)

5月8日にトヨタ自動車が、来年3月期の業績予想(営業利益)を1兆8千億と発表しました。リーマンショック前の業績に近づいたということで、非常に明るいニュースだと思います。日経平均も14,000円を超え、ダウ平均も15,000ドルを超えております。



アベノミクスで日本だけが盛り上がっている感もありますが、アメリカの景気も実は盛り上がっております。少し過熱気味の様子も見受けられますが、株を保有している人にとっては、相当な資産効果がでているのではないかと思います。

不動産はというと、年末から REIT(不動産投資

信託)の価格は日経平均と同様に上昇しております。日銀が国債だけでなく、REIT も買うと言っているのも、今後においても上昇期待は高いのかなと思います。要は、この効果が一般の物件価格に影響を与えるかどうか、またその効果が八千代市にも及ぶのかどうかということが、最大のポイントであると思いますが、現在までのところ弊社においては、価格上昇の雰囲気はありません。いずれにしても、株価もそうですが、REIT 指数も景気の先行指標と言えますので、実体経済へ影響を与えるのは、サラリーマンの賃金と同様に来年にかけてという事になると思われま

す。最近のニュースでは、円安による燃料価格の上昇を懸念する声も聞こえますが、円が110円台だった事もあるわけで、そういう時はどうしていたのかと後悔してしまいます。私は短絡的かもしれませんが、価格に転嫁するしかないと思っております。企業である以上は利益を出さねばなりませんから、企業努力をするのは勿論ですが、それでもだめなら価格転嫁しかありません。そこから先は消費者が、決めることです。消費者が買わない選択をしたならば、その仕事は現在、必要とされてないと言えます。ただし、食料の問題等は国の安全保障に関わる問題になりますので、農業のように一定の補助は必要不可欠かもしれません。そうでないものは、淘汰されていってしまうのも、資本主義を選択している以上は仕方のないところでもあります。今は15年にも及ぶ日本停滞からの脱却を図る重要な転換期であると思っておりますので、問題も色々生じてくると思いますが、脱却ができれば、そこには明るい未来があると私は信じております。

塩田了丈